

きんもくせい

令和8年 学校教育だより

September **9** 第370号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線623)

編集目標 学びあい 人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育

第65代 南畑小鼓笛隊～受け継がれる伝統～



写真提供／南畑小学校

私の好きな世界

つるせ台小学校 四年

鈴木 唯愛

いろんな気持ちに出会える
本の世界

みんなとうちとけられる
水の世界

知れば知るほど
つづきが気になる
歴史の世界

何をかいても自由な
わたしだけの
アートの世界

私のまわりにはたくさんの
世界がある
だから毎日ワクワクする

はじめに

平成二十九年告示の小学校学習指導要領は、社会の变化やその先の社会の在り方を見通しながら、その時代に社会人として活躍できる人材に必要な力を育むことを目的に改訂された。社会科においては、よりよい社会の形成に向け、自らの能力を引き出し、学習したことを活用して、社会の中で出会う課題を解決していくことのできる人材の育成が重要である。

取り組む社会科授業

指導者 関沢小学校 教諭 岩田 俊之

①課題設定

現行の学習指導要領の社会科では、知識・技能の習得に加え、社会的事象を多面的・多角的に捉え、根拠をもとに自分なりの考えをもち、議論する力の育成が求められている。しかし、テストを重視した知識注入型の授業では、児童の主体的な学びを引き出すことは難しい。そこで本研究では、「児童の主体的な学び」の実現に焦点を当て、研究課題を設定した。

②具体的な手立てと実践

主体的に取り組む授業づくりに向けて、以下の取組を行った。

③授業実践

三年生「昔の道具と暮らし」の単元では、「昔と今の暮らしの道具の変化を見つけ、人々の

富士見台中学校 3年 田村 紗奈

季節の飾り作りを通して

家庭科部では、年に数回、地域の方々に教えていただきながら、風鈴・ラベンダー（なかよし公園で生育）の香り袋・クリスマスリースなどの四季折々の装飾作りをしています。優しく声をかけてくださり、一緒に考えながら活動する中で作り方だけでなく、人の思いやりや温かさを改めて感じる事ができました。

この経験を通して、協力して物を作り上げた時の達成感や人とのつながりを大事にする事の大切さを実感しました。私は部長として活動する中で、技術面だけでなく心の面でも大きく成長することができたと思います。これからの学校生活でもこの活動で学んだことを生かして、感謝の気持ちを胸に進んでいきたいです。



暮らしはどのように変わったのかを考えよう」というめあてのもと、授業を行った。



本実践で特に重視したのは、資料（教材）の選定である。社会科では用いる資料によって、授業の質が大きく左右される。資料が難しすぎると、児童は教師の説明を聞くだけの受動的な学習になりやすく、逆に簡単すぎると既習事項の確認に留まり、学びの深まりが生まれにくい。また、資料の数や提示するタイミング、本時の課題解決につながる資料（教材）であるかなど、資料（教材）の選定には、多くの観点からの検討が必要である。

魅力ある授業

学ぶ楽しさを味わい、児童が主体的に

特別支援教育

「共に学ぶ中で」

鶴瀬小学校 教諭 竹花 美樹

インクルーシブ教育とは「全ての子どもが同じ教育環境で共に学ぶ教育の在り方」です。本校では、通常学級や特別支援学級・通級指導教室など、多様な学びの場を大切にしています。その中で、様々な価値観をもつ子どもたちがお互いに支え合って学習しています。

なかよし学級では、一年生から六年生までの子どもたちが個別の学習課題に取り組みんでいます。一人一人の発達段階や得

本実践では、富士見市の難波田資料館から昔の道具を借用し、約十五点の道具の中から、興味・関心を高める教材（矢立て・井戸車）・課題解決に適した、分かりやすい教材（黒電話・洗濯板・羽金）の二つの観点から資料を精選し、計五点を活用した。

授業では、児童が実際に道具を見たり、触れたり、動かしたりしながら話し合い活動を行った。昔の道具が現代のどの道具に変化したのかや、



その不便さや良さ、改善された点についてワークシートに整理する活動を行った。さらに一段階深い学びとして、「道具の変化を通して暮らしはどう変わったか」について

大きくことに課題のある児童が力強く走る姿に、友達がジェスチャーでエールを送りました。互いを認め合い、支え合う学びを通して、子どもたちは大きく成長しています。



て学級全体で議論を行った。その結果、作業の時間短縮につながった・機械を動かしている時間にはかの作業ができるようになった・便利で使いやすくなり、誰でも扱えるようになったというように、考えを整理することができた。

授業後には、「もっと昔の道具を調べたい」「今使っている〇〇は昔は何だったのだろう」といった発言も見られ、学びが授業の外へと広がっている様子が確認できた。これらの姿から、本実践では主体的に追究する学びを実現できたと考えられる。

おわりに

本研究を通して、社会科研究会に多くの教員が参加し、さまざまな視点やアイデアを交流することの重要性を改めて実感することができた。また、授業実践から、資料（教材）の在り方が児童の主体性に大きく影響することが明らかに

指導・講師

関沢小学校校長

関口 循子

「学ぶ楽しさを味わい、児童が主体的に取り組む社会科授業」の実践では、子どもに合った質の高い教材となるよう、資料の選定を重視しました。それは、次期学習指導要領の目指す「質の高い学びの実現」への一歩と感じます。

諦めなかった先に見えたもの

水谷中学校 保護者 竹内 宏俊

私は高校三年生の娘がいま
す。娘の通う高校はバスケット
ボール部の強豪校で、県大会出
場が当然という環境です。部員
の多くはクラブチームや強豪中
学出身の推薦入部ですが、娘は
一般入部での挑戦でした。

厳しい練習の中、実力不足も
あり、娘はいつも顧問に叱られ
る役回りでした。何度なくしけ
「やめたい」と漏らすこともあ
りましたが、部活後も小学校か
ら通うバスケットボールスクール
に通い続け、地道に努力しました。
二年生で自分たちの代になり、
公式戦では、部員が少なかった
ためベンチ入りはできたものの、
出番はほとんどありません。し
かし、積み重ねた努力が実り、
最後の三カ月で急成長し、よう
やくプレータイムを得られるよ
うになりました。

迎えた最後の予選では、負け
たことのない相手に十点差でま
さかの敗退。試合終了間際、
顧問の配慮でラスト三分だけコ
ートに立たせてもらい、それが



娘の最後のプレーとなりました。
引退の夜、娘は「三年間やり切
った悔いはない」と話してくれま
した。

そんな娘は今、疲労骨折寸前
のところにトレーナーに支えられ
た経験から、理学療法士を目指
しています。また、この夏は、
県大会出場を決めた母校の中学
校で、ボラティアとして後輩を
支えるそうです。プレーヤーと
してではなく、支える側として
娘のバスケットボールは続いてい
くようです。

「自尊感情を育む教育」



水谷小学校

本校では、子どもたちの自尊
感情を高め、「自分も友だちも
大切にできる子」の育成を目指
して、「いのちの授業＋プラ
ス」に取り組んでいます。

各学級では、友だちのよいと
ころや頑張りを伝え合う「にじ
いろカード」を交換したり、授
業内では友だちの考えを大切に
しながら学び合う場面を積極的
に取り入れたりしています。



も友だちも大切にしながら安心
して学校生活を送ることができ
るよう、努めています。

「子育て」って何だろう？

水谷東小学校 保護者 千葉 純平

「子育て」って何だろう？
これが、ずっと僕の中にある
問いです。子どもに正しいこと
や間違っていることを教えるこ
と？習い事に通わせること？勉
強を教えること？もちろん、
それらも子育ての大切な一部
かもしれないけれど、僕は、そ
れだけではないような気がして
います。

そもそも「子どもを育てる」
という響きが、僕にはどこか他

を、動かす。ように感じられて
しまいどうもしつくりきません。
なぜかという、自分を、動か
す、ことができるのは他の誰で
もなく自分だけだと考えるから
です。

学校から帰ってきて、友達と
遊んで、やりきってぐったりして
いる子に宿題をさせることは難
しいことです。

僕はここ、朝起きて
くるたびに、そして学校から帰

「図書室は無限大」

富士見台中学校 学校司書 柳原 英子

「こんにちは！」昼休みにな
ると明るい笑顔とともに、たく
さんの生徒がやってきます。ここ
は、「台中図書室」。一万冊以
上の本と色とりどりの花が、生
徒を迎えます。

生徒たちは、思い思いのスタイ
ルで昼休みの二十分間を過ごし
ています。本を借りるのはもち
ろん、友達と本や雑誌を見なが
ら語らう者。本に囲まれた空間
を味わい、ホッと一息つく者。

教室とは少し違う空間を求め、
生徒たちは来室します。学校司
書は、そんな空間をコーディネート
するために、図書室の環境
整備に務めています。

に、図書委員とも数多くの連携
をしています。また、普段、図
書室に足が向かない生徒に図書
室を知ってもらうため、美術部
とコラボしてギャラリーを設置し
たり、年二回程、先生によるミ
ニコンサートを実施したりとい
ます（大盛況！）。これらの
イベントをきっかけに利用者が増
加しました。



その他、各学年の廊下に授業
や行事に関連した本の出前配架
もしています。このように、『校
内いつでもどこでも本が身近に
感じられる環境』を目指してい
ます。市の図書館の団体貸出を
利用し、授業に役立ててもらい
ます。

今、読書離れの声が挙がる中、
『台中図書室』は本好き、図書
室好きが増加中です。中学生に
とって読書は、大切な「時間」、
大切な「場」をつくってくれます。
その軸となる学校図書室はまだ
まだ無限大。学校司書の図書室
づくりも生徒の使い方も無限大
です。

「明日もお待ちしております！」

わが母校 みずほ台小学校

学校応援団 帖地 知穂

つてくるたびに、また少し大きく
なったなあと感じる娘を見ている
と「育てる」というより、「育つ」
を支えている感覚が近いなあと思
うようになりました。

現在の僕は「子育て」とは、「子
どもがのびのび育
つ場づくり」では
ないかと思ってい
ます。



つ場をつくることができたなら、
なんて少し飛躍しましたが切に
感じています。

「子育て」ってなんだろう？
この探究はこれからも続きそう
です。

みずほ台小学校は、今年開
校五十周年を迎えました。こ
の長い歴史の中で、児童数は
大きく増減しました。私の在
学時は、一学年六学級あり、
多い時は千四百名程の児童が、
授業や行事を共にしていまし
た。当時は学区編成の関係で、
駅の向こうから雨の日も風の
日も、重いランドセルを背負っ
て登校する子もいました。低
学年にとっては大変な道のり

だったと思います。教室の配置
も今と大きく異なりました。現
在のデイサービスや放課後児童
クラブは、一年生の教室でしたし、
教室不足のため、図書室や図工
室を学級で使用することもあり
ました。

長い年月を経て、現在は当時
の半分以下の児童数になりました。
しかし、人数が減少したか
らといって寂しくなったわけでは
ありません。子どもたちの笑顔や、





4年生の難波田城資料館出前講座

戦時中の生活や道具について学びました。最後に、戦時中に富士見市に落とされた爆弾の破片を持ち、重さを感じました。

鶴瀬小



特色ある活動

5年生が総合の学習で田植えをしました。米名人をめざし、収穫しておいしいお米を食べるのが楽しみです。

南畑小



本中バラエティリレー

キックバイクで進むこと苦戦しながらも懸命にたすきを繋ごうとする姿が見られ、チームの絆が深まりました。

本郷中



給食だ！ピックしゃもじ 出動！

「感謝しよう 素早い行動声掛けで残飯ゼロの給食へ」給食委員がしゃもじを掲げて配膳室前でアピールします！

富士見台中



「6年生・模擬選挙体験」

県の選挙管理委員会から講師を迎え、本物の投票用紙や道具を使って選挙を体験しました。

勝瀬小



復活・親子除草

5月27日(木)に親子除草を行いました。数年ぶりの開催でしたが、多くの保護者の方にご参加いただきました。

水谷小

長い夏休みを終わり、小麦色に日焼けした子どもたちと共に、二学期が始まりました。
今学期は、運動会や音楽会をはじめとする多くの行事が予定されています。子どもたちは、一学期で培った力をもとに、仲間で助け合い、認め合い、褒め合いながら、一つ一つを成し遂げていき、大きく成長していきます。またそのような活動を通して、それぞれの学校の特色も生まれます。子どもたちが生き生きと活動し、学び合い、一人一人が輝くことができるように、教職員一同支援していきます。地域や保護者の方々には、ぜひ学校へ足を運んでいただき、子どもたちの様子を覗いたく共に、地域に根差した学校づくりに、ご支援とご協力いただきますようよろしくお願いします。



運動会・体育祭

小学部・中学部・高等部みんなの投票で決定したスローガンを掲げ、ふじみっこ全員が一生懸命競技に取り組みました。

特別支援学校



心を合わせて奏でた校内音楽会

初めての6月開催の音楽会でした。学年ごとに練習を重ね、心を1つにして感動を届けることができました。

ふじみ野小



1学年レク PASSION杯

4クラス同時にドッジボールを実施。複数のボールを使うことで、学年全体で盛り上がり、熱く充実した時間となりました。

水谷中

学び続ける力を育むために

富士見市立中央図書館 長谷川 実

情報通信技術や生成AIの進展により、知りたいことは瞬時に調べることができる時代になりました。便利さが増す一方で、「何を知らるか」だけでなく、「得た情報をどのように考え、活用するか」がこれまで以上に重要になっています。これからの学校教育には、知識を身に付けることに加え、自ら考え、判断し、学び続ける力を育むことが求められています。

そのような時代だからこそ、私は「本を読むこと」の価値を改めて見つめ直したいと思います。一冊の本を手に取り、ページをめくりながら物語や筆者の考えに向き合う時間は、自分とは異なる価値観や文化に触れる貴重な機会であり、「もっと知りたい」が生まれ、自ら調べ、考える姿勢へとつながっていきます。

図書館には、毎日のように子どもたちが訪れます。お気に入りのシリーズを夢中で読む子、調べ学習のために資料を探す子、何気なく手に取った本との出会いを楽しむ子。それぞれの姿から感じるのは、本との出会いが子どもたちの可能性を大きく広げているということです。一冊の本が将来の夢につながることもあれば、困難に直面したときの心の支えになることもあります。

だからこそ、子どもたちが本に親しみ、自分に合った一冊と出会える環境を大切にしたいと考えています。学校図書館と公共図書館は、子どもたちの学びを支える「もう一つの教室」とも言える存在です。授業で興味をもったことをさらに深く調べたり、自分の関心に合わせて読書を楽しんだりすることができます。また、本だけでなく、新聞や地域資料、デジタル資料など、多様な情報に触れることで、情報を比較し、選び、活用する力も育まれていきます。

子どもたちの成長は、学校だけでなく支えられるものではありません。家庭での会話、地域での体験、図書館や公民館などでの学び、人との出会いのすべてが子どもたちの豊かな学びにつながっています。学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら連携し、子どもたちの「知りたい」「やってみたい」という気持ちを温かく応援していくことが、未来を担う子どもたちの力になるのではないのでしょうか。

予測が難しい時代だからこそ、必要なのは変化に対応できる「学び続ける力」です。本との出会い、人との出会い、地域との出会いを通して、自ら考え、挑戦し続ける子どもたちが育つことを願っています。

教育委員会だより

高校・大学等に修学されたお子様の保護者の方へ

＜教育資金利子補給制度のご案内＞

高校・大学等に修学するため、入学資金や在学資金など教育に要する資金を必要とされる方が、日本政策金融公庫の教育一般貸付（入学資金、在学資金）を受けた場合に、市がその返済利子の一部を助成します。

1 交付対象者

次の全てに該当する方

- ①高校、大学等へ修学する方またはその保護者であること
- ②富士見市に住民登録があり、現に居住していること
- ③市税を滞納していないこと
- ④日本政策金融公庫から教育資金の融資を受けていること

※利子補給制度の対象となる融資は、修学する学校ごとに1回のみです。

2 利子補給期間

在籍する高校、大学等の正規の修学期間

3 利子補給金額

借入れに係る利子の年額（上限1万7千円）を助成します。
※利子の年額は、年度単位で計算します。

4 その他

申請方法・申請時期等の詳細は、富士見市ホームページをご確認ください。



【利子補給に関する問合せ先】

富士見市教育委員会 教育政策課（富士見市立中央図書館2階）
電話 049-251-2711（内線613）

【教育一般貸付に関する申込み・問合せ先】

日本政策金融公庫
教育ローンコールセンター：0570-008656（ナビダイヤル）
03-5321-8656

＜近隣の店舗＞

日本政策金融公庫 川越支店
住所 川越市脇田本町14-1 日本生命川越ビル5階
電話 0570-017448（ナビダイヤル）



く素直です。

今年度、私は四年生の担任をしています。この学年は、二年前にも担任を受けもっていました。一年ぶりにかわる子どもたちは、変わらない元気で素直さがあり

「思いやりのあるクラス、考えるクラス、メリハリのあるクラスにしたい」という思いから、頭文字をとって合言葉にしました。クラス全員で協力し、楽しい学校生活を送れるようにしてほしい

二十七名でつくるチーム四の三

富士見市立諏訪小学校 教諭 山下 龍郎



私は、大学を卒業してから諏訪小へ来て四年目になります。朝、校門で挨拶をする時、子どもたちは「先生！先生！」と笑顔で話しかけてくれます。諏訪小の子どもたちは、とても明る

つつも、「方で「成長したな」「頑張っているな」と感じるものがたくさんあります。やる気いっぱい、のエネルギーに、私自身も日々励まされています。今年度のクラスの合言葉は「お・か・め」です。

と思います。そして、私は、教師になつてからずっと大切にしていることがあります。それは、子どもたちとの外遊びの時間です。運動が好きな子ども、苦手な子どもを動かすよさや楽しさを感じ

てほしい。そんな願いから、休み時間は必ず外に出て、子どもたちと遊んでいます。外遊びを通して、クラスの仲をさらに深めていきたいです。

私は、クラスの子どもたちのことを、心から信頼しています。日々努力し、成長している姿を見ると、「先生をしていてよかった」と、教師としてのやりがいを感じます。これからも、子どもたちと力を合わせ、笑顔あふれる学級をつくっていきたいです。そして、外遊びを通して、諏訪小学校を明るく活気のある学校にしていきたいです。

編集日記

六月十八日に東京都の小学校で火災が起こった。出火場所は「音楽準備室」。ニュースの映像では黒い煙がもくもくと空に舞い上がり、教室の奥では炎がめらめらと揺れている。

目線を少し下すと、児童が数名校舎の外にうずくまっている。地上四階の校舎の窓から逃げて、ベランダではない場所に避難している。

この光景を目の当たりにした時、現実のこととして受け止めることが容易ではなかった。五日後の区の会見で校舎の解体の方針と児童のうち、一・二年生は今の校舎のうち損傷を免れた安全な教室で授業を再開させること、そして、三年生以上が分散登校となることも分かった。さらに、九月をめどに全校児童が通うことができる仮移転先の施設を確保して、全員で学校再開を目指すそう。

学校では、一年間の中で幾度も避難訓練を行っている。自然災害や火災等児童に起こりうることを想定して、行っているが、この火災から災害後のことも示唆されたように思う。

九月一日は「防災の日」。安心安全な学校づくりに努めた。（関口循子）